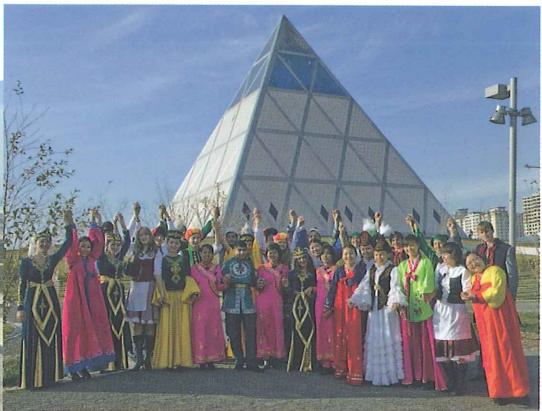
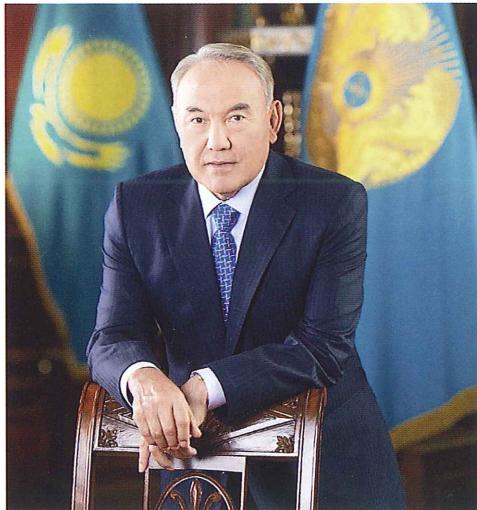


# カザフスタン

◆ 概要小冊子 ◆



在日カザフスタン共和国大使館



ヌルスルタン・ナザルバエフ・カザフスタン共和国大統領

## 政治体制

1995年8月30日に国民投票を通して是認された憲法によって、カザフスタンは世俗的民主共和国であり、国家権力は、三権（行政：政府、立法：国会、司法：裁判所）に分立されている。

国家元首及び軍隊最高司令官は、大統領であり、政府のトップは首相である。

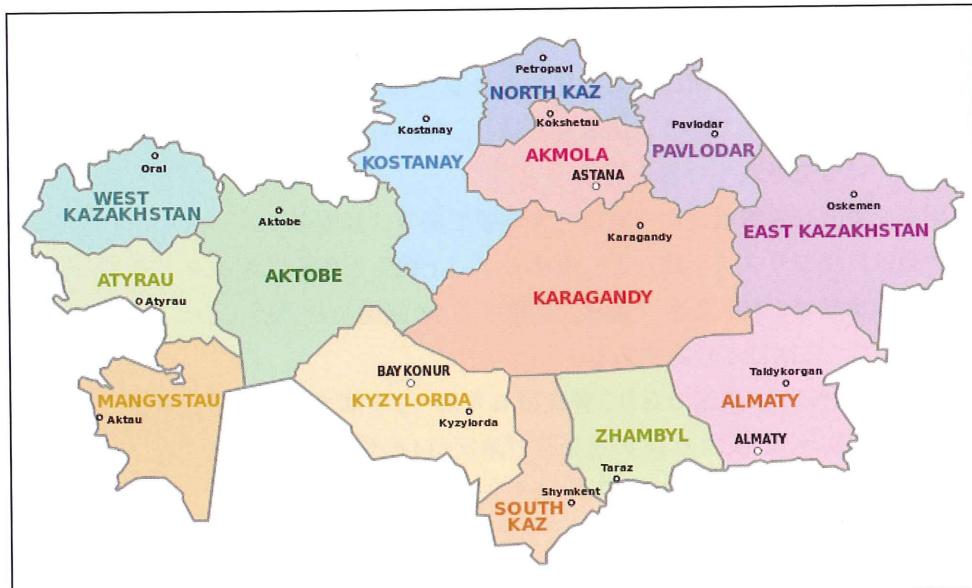
国会は、マジリス（下院）と、セナート（上院）という二院制をとっている。

下院議席数は、107議席（党派に比例する98議席及び民族大会から選出される9議席）で、任期は4年間である。

上院議席数は、47議席であり、任期は6年間（3年間で議席数半分再選）である。なお、上院議席は、国内の16の主要行政地区（14の州及びアスタナ市とアルマティ市）の地方議会（「マスリハト」）にそれぞれふたりずつ選出され、残りの15議席は大統領によって任命される。

## 国の概要

独立	1991年12月16日
人口	1700万人(2013年)
首都	アスタナ(人口80万)
最大の都市	アルマティ(人口150万強)
総面積	270万平方キロメートル。日本の7倍。
近隣国	ロシア、トルクmenistan、ウズベキスタン、キルギス共和国、中国。カスピ海をはさんでアゼルバイジャンとイラン。
国境	合計1万3200キロメートル。カザフスタン共和国はロシアとの国境が最も長く、7591キロメートル。中国との国境は1783キロメートル。
沿岸部	カザフスタンは内陸国だが、アラル海とカスピ海に接している。
政体	三権分立の共和国
元首	ヌルスルタן・ナザルバエフ大統領
主要言語	カザフ語(国語)、ロシア語(「公用語」)。
主要宗教	イスラム教、キリスト教他。
平均寿命	64、66歳(男性)、74、88歳(女性)(2013年)。
通貨	1テング=100ティイン
主要輸出品	原油、ウラニウム、鉱物、金属、穀物、羊毛、肉など。
一人当たりGDP	1万4000ドル(2013年)
インターネット・ドメイン	.kz



カザフスタン共和国の地図



カザフスタン共和国の国章

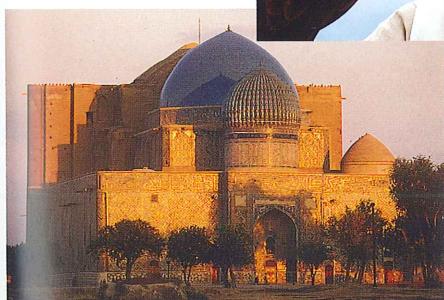


カザフスタン共和国の国旗

カザフスタンは、世界で九番目の領土を誇る。莫大な鉱石資源を有する、経済的に大きな可能性を秘めた、豊かな伝統と、文化と、歴史を持つ国である。地形は東部の人口過密な山岳地帯から西部の資源豊富な人口密度の少ない低地、シベリア性気候と地形の産業地域である北部、草原である中央部と肥沃な南部と、地域によって大きく異なっている。古代遊牧民族とユーラシア大陸のテュルク系の祖先がのちにチングイス・カン帝国に加わったカザフは、15世紀後半と16世紀に、世界で最後の偉大な遊牧民の帝国のひとつを築きあげた。18世紀及び19世紀にロシア帝国に併合し、1936年12月にソ連に属する共和国となり、1991年12月16日、独立を宣言した。

ソ連邦が崩壊したあと、カザフスタンも他の旧ソヴィエト諸国ともども、ハイパーインフレーションを含む財政困難に陥った。経済恐慌を食い止めるため、カザフスタンは大々的な改革に乗りだし、経済の再建に着手した。

政府の迅速な対応により2000年、欧州連合により市場性経済を公式に認定され、つづいて2002年3月には米国の認定も受けた。さらに、カザフスタンは予定より7年も早く、CIS近隣国の中では国際通貨基金の債務を返済した初めての国となった。成功を収めた改革を通して、カザフスタンは有利な信用格づけを獲得し、西欧の効率基準および信用基準に近づく財政制度を運営し、完全積立方式総年金制度を確立した。



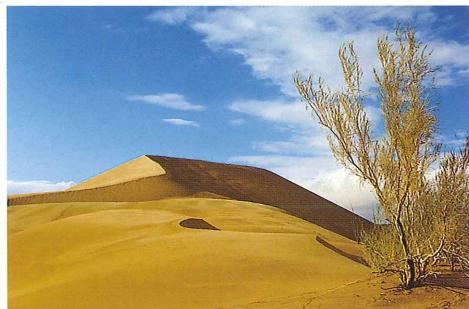
## カザフスタンは、ユーラシアの中心である



- ・地政学的な観点から極めて重要な場所に位置している。
- ・地理的な交差点ではなく、様々な国、文化、宗教、文明の交差点である。
- ・過去においても、現在においても、様々な大国の政治的・経済的な利害が交差している。

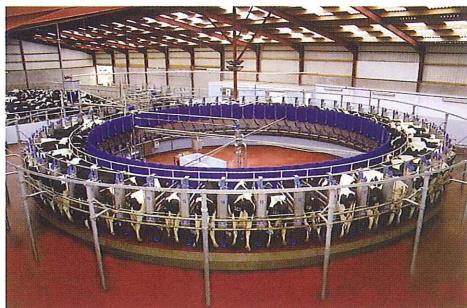
## カザフスタンは、豊富な天然資源を有している

- ・カザフスタンは豊富な天然資源に恵まれており、その総合理藏量が、世界6位を誇る。
- ・メンデレーエフの周期表に載っている110の化学元素の内99種がカザフスタン国内で発見されている。
- ・石油、ガス、ウラン、亜鉛、タンゲステン、モリブデン、金、銀、鉛、クロム、銅その他資源の60種が国内にて採掘されている。
- ・なお、カザフスタンにはその総合理藏量が約46兆ドルと換算されている、およそ5000以上の鉱山がある。
- ・これらの、豊富な天然資源が、カザフスタン経済を支えている。



## カザフスタンは、産業・イノベーション発展プログラムを実施している

- ・カザフスタン政府によって現在産業・イノベーション発展促進プログラムが実施されている。
- ・同プログラムは、カザフスタンの2020年までの発展戦略によるものである。
- ・同プログラムの主な目的は、資源依存型経済からの脱出と、先端技術の導入による製造業の発展によって、国内の経済の多様化を図ることである。



- ・カザフスタンは、現在の実績に基づいて、2015年に次の目標に達成することを目指す：

- ・人口一人当たりのGDPは、15,000ドルとなる。
- ・労働生産率は、製造業界において50%に、その他の分野において2倍に増加する。
- ・非資源分野（製造分野）において生産された製品はカザフスタンの輸出の40%を占める。
- ・エネルギー効率は、現在と比して10%まで増加する。
- ・先端技術を有する企業は、現在と比して10%に増加する。



## 関税同盟

- ・2007年10月6日に、カザフスタン、ロシアとベラルーシ3カ国との間で締結された条約により、2010年1月から、関税同盟が設立された。
- ・この関税同盟は、中小企業を含めてカザフスタンの企業にとって新たな市場の可能性をもたらす。
- ・関税同盟参加国との間に、関税手続きなどが排除され、製品の輸出・輸入が自由になっている。これによって総合GDPが1兆8000億ドルで、総合人口が1億7000万人の市場が出来ている。

## 世界銀行 “Doing Business” 格付け



・世界銀行により毎年183カ国における投資環境やビジネス推進の難易などに対する格付けが行われる。

・2012年の格付けで、カザフstanが経済分野における改革に対する評価において世界10位になり、Doing Businessで世界47位となった。

〈なお、カザフstanの格付けが、アゼルバイジャン（66位）、ベラルシー（69位）、ロシア（120位）、ウクライナ（152位）

と言ったCIS諸国の国々のみならず、ポーランド（62位）、トルコ（71）、イタリア（87位）、中国（91）などより高くなっている。

- ・カザフstanとしては、今後も投資導入・ビジネス推進の環境の改善を図ることによって、Doing Business格付けの向上に向けて今後更なる努力をしていく方針である。
- ・貴社を含めて、日系企業のカザフstanへの積極的な進出に期待している。

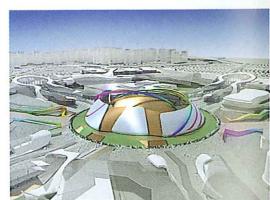
## EXPO 2017 ASTANA



・2017年6月から9月までの3ヶ月間、カザフstanで「2017アスタナ国際博覧会」が開催される。

- ・中央アジア、更に旧ソ連の中では初めての万博である。
- ・そして日本との縁も深い新首都・アスタナでの開催である。

- ・テーマは「“Energy of the Future” 未来のエネルギー」である。
- ・このビッグイベントを成功させるために、今後アスタナにおいて新たな建設ラッシュが始まろうとしている。
- ・先端技術を有する日系企業にとっても、新たなビジネスチャンスが沢山ある。



## 司法制度



独立以後、カザフスタンは法的基盤分野において様々な改革に成功をおさめてきた。将来廃止することを念頭において死刑制度を一時停止したなどの改革、また重罪の裁判の陪審員制度導入は、国際的な称賛を浴びた。

カザフスタンの司法制度は、地方と地域(州)レベルの裁判所、国家レベルの最高裁判所と憲法制定評議会、そして、國家企業と軍事司法システムのあいだの争いを仲裁する裁判所から成っている。

地方裁判所による判決は、地域レベルで上訴可能であり、最高裁判所は地域裁判所の再審理を扱う。7人のメンバーを持つ憲法制定評議会は、憲法の解釈に関する分野を扱う。

## 市民社会

カザフスタンには、1万3000のNGOを含め、2万5000以上のNPOがあり、55万の人々が「第三セクター」に関わっている。

## 中流階級

カザフスタンの政府は、必要な市場改革を行い、また中小企業(SME)を支持する数多くの国家プログラムを通して、中流階級の発展を図ることに特に注意を払っており、その結果として、2005年から2012年のあいだ、SMEの数は150%も増加している。



## カザフスタンのメディア



カザフスタンに現在2000を超えるメディア機関があり、その85%が民間機関である。

今日では、主要な新聞、テレビ、ラジオのチャンネルが、ドイツ語、ウクライナ語、トルコ語、英語を含む少なくとも11の言語でカザフスタンの国民に情報を放送している。国内における少数民族の言語で放送するこれらのメディア・アウトレットは、国

家予算から助成金を受けている。なお、最初のカザフスタンの衛星チャンネル、カザフ・テレビが2002年に発足し、国内および海外で放送を続けている。

更に、CNNやBBCといった国際メディア機関は、ケーブルテレビ局を通してカザフスタンで様々なプログラムを放送しており、AP、AFP、ロイターといった世界でも最大の規模を誇るニュース・エージェンシーを含め、20か国を越える外国から80以上のメディア・アウトレットがカザフスタンで活動している。

## 民族構成



100以上の民族が平和共存するカザフスタンの多民族構成は、政治および文化的生活の大部分の機動力となっている。カザフスタンの民族同士の平和と調和を確立する努力は、国際社会からも広く称賛されている。国家の民族間政策は、「多様性のなかの統一」いう原則を基本としている。

あらゆる民族グループの平等性という原則は忠実に守られており、国で使われるすべての言語は法で保障され、尊重され、言語や文化を発展させるあらゆる国民の必須の権利を守られている。中等教育のおよそ40%、高等教育の70%が、ロシア語でなされる。小民族グループが密集する地域の学校では、ウイグル語、ウズベク語、ウクライナ語、ドイツ語、ポーランド語、その他の言語が用いられている。

国家の日曜学校および文化的行事も、母国語を教える支援を受けることができる。今日、民族グループの30の言語が、およそ200の日曜学校と国家復興活動の3つの学校で、教えられている。更に、カザフ語とロシア語の劇場のほかに、ウイグル語、ドイツ語、韓国語などの劇場もあり、文化的な多様性も確保されている。

また、カザフスタンに、少数民族の代表からなる「民族会議」が設立されており、カザフスタンの政治体制のなかで重要な要素となっている。それは、あらゆる民族グループの利益を代表し、民族や宗教とは関係なく、あらゆる市民に平等な権利と自由を約束しているからである。



## 言語

国語であるカザフ語は、テュルク言語グループに属しており、人口の70%強がこれを話す。なお、人口のほとんどは、国内で異なる民族間で話すときの主なコミュニケーション手段であるロシア語も使っている。政府によって言語に関するプログラムが採用され、国内においてカザフ語、ロシア語、英語が利用されることを目標としている。

## 宗教構成

宗教の慣用性と調和は、カザフスタンの重要な方針であり続けている。カザフスタンにおける2つの主要な宗教はイスラム教とキリスト教（それぞれ、宗教者数は70%と26%）である。カザフスタンのほとんどのイスラム教徒は逊ニ派に属し、ほとんどのキリスト教信者はロシア正教会に属している。カザフスタンには17の宗教があり、3000を超える宗教組織が登録されているが、政体的には世俗的な国であり、国家と宗教が分立されている。



## カザフスタンの2050年までの発展戦略



2012年12月14日、例年の国民に対する教書演説を通して、ナザルバエフ大統領は、現在までの発展戦略であった「カザフスタン2030」の戦略を既に達成していることを踏まえ、2050年までの新たな戦略を発表した。

新たな戦略を実施することによって、国民の福祉を更に向上させるために、様々な分野を改善し続けて、その一環として中小企業を支援し、民間インフラをさらに強化していくことが、重要課題となっている。

カザフスタンは現在世界でもっとも競争力の高い50カ国に入っているが、新たな発展戦略を実施することによって、先進国のトップ30に入ることを目指している。

## 外交

カザフスタンは、全方位外交を国家外交方針としており、中央アジアやアジア全体の諸国のみならず、ロシアや中国、または欧米その他の地域と良好な関係を維持している。

なお、カザフスタンの現在までの主な外交実績や国際社会に対する貢献は以下の通りである：



## 核兵器廃絶・核不拡散分野における実績

- カザフスタンは、独立後以来一貫して、地域的、世界的な安全と安定のために、国際社会に積極的に貢献してきている。
- カザフスタンは1991年8月29日に、ソ連時代に作られた世界最大のセミパラティンスク核実験場を自発的に閉鎖した。そして世界4番目の規模の核兵器の廃棄と、その

インフラ設備の完全な撤去は、カザフスタンの世界安全確保に対する歴史的な貢献の一つである。

- ・またカザフスタンの積極的な外交政策によって、2009年3月に、中央アジア非核地帯条約が発効された。この条約によって北半球に位置する地域において、また2つの核保有国と接している地域において、そしてかつて核兵器の配置があった地域において始めて非核地帯が出来ている。
- ・このようなカザフスタンの積極的な立場が国際社会から大きく評価され、2009年12月2日に国連の総会において、カザフスタンの大統領の提案により、セミパラティンスク核実験場が閉鎖された8月29日を、「核実験に反対する国際の日」とする決議案が採択された。
- ・また、カザフスタンは、包括的核実験禁止条約(CTBT)の早期の発効、兵器用核分裂性物質生産禁止条約(カットオフ条約、FMCT)に関する協議の早期の開始、そして核兵器不拡散条約(NPT)の強化と有効性の向上を求めている。
- ・更に、カザフスタンは、大統領の提案によって2012年8月29日に、ATOM(Abolish Testing. Our Mission.核実験を禁止させることは、我々のミッション)という名前の新たな国際的なプロジェクトをスタートさせた。このATOMプロジェクトの枠内では、核兵器に反対するどんな人も、プロジェクトのサイト([www.theatomproject.org](http://www.theatomproject.org))にあるオンライン請願書に署名することによって、世界各国に対して、核実験を永久に禁止させることを要求できる。



### アジア相互協力・信頼醸成装置会議 (CICA)

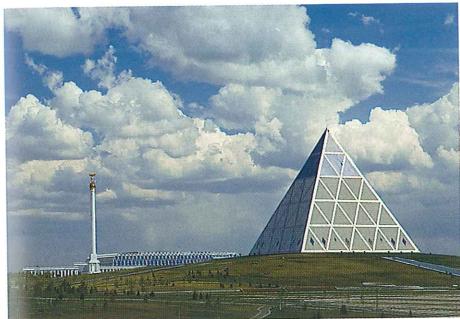
- ・カザフスタンの提案で創設された、アジア相互協力・信頼醸成装置会議(CICA)現在国際関係における現実的な要素となり、アジアにおける安全と協力を確保する観点で効率的な手段となっている。
- ・同会議は、アジア大陸において、建設的な対話をを行う場となっている。同会議は、アジア大陸において平和と信頼を構築することに向けた発想から、現実的な集団外交の有効なメカニズムになるまでの長い道を歩んできているが、現在同会議にアジア大陸の総合人口の90%を有する(あるいは、世界人口の半分)24カ国が加盟しており、日本、米国などの9カ国がオブザーバーとなっている。
- ・現在同会議に加盟している国々は、至急解



決しなければならない課題を抱えている。集団外交のあらゆる手段を利用しながら、国際テロ、宗教的過激主義、組織犯罪、麻薬販売及び不法移民といった数多くの問題の解決のための協力を急がなければならない。

- ・2012年～2014年の間、トルコ共和国が同会議の議長国を務めており、カザフスタンとして今後も各国との協力のもとで、アジアにおける様々な問題の解決に向けて積極的に取り組んでいく方針である。

### 文明間・宗教間対話



- ・現在世界において宗教的また民族的な紛争などが多く発生していますが、カザフスタンは、宗教間及び民族間の調和を図るためにバランスの取れた政策を行うことによって、地域の平和維持と安定確保に大きく貢献している。
- ・カザフスタンには、約100以上の民族と30以上の宗教派が共存していますが、文化間の対話と宗教間の対話に成功しており、世界に「カザフスタン的な道」として知られている。

- ・寛容主義というのは、カザフスタンの政治文化の基準だけではなく、国家としての原理でもあり、一貫して維持され、更に強化されている。
- ・このようなカザフスタンスタイルの政治モデルは、東洋と西洋の間の、そして多くの宗教の間の架け橋に相応しいと評価されている。
- ・また、カザフスタンは、西洋とイスラム世界の対話を調整する目的で、「共通の世界：多様による進展」というイニシアティブを提案し、2008年10月にカザフスタンの首都アスタナにおいてイスラム世界と欧米各国の初の外相会合が開催された。

### 世界宗教指導者会議

- ・多民族、多宗教国家であるカザフスタンは、世界における様々な文明と宗教の間ににおける対話に向けた世界的な努力を全面的に支援している。
- ・そして、2003年から2013年の間に、カザフスタンの主催によってアスタナにおいて4回の世界宗教指導者会議が行われており、日本からも神社本庁の総裁が参加している。



### 欧米諸国との対話

- ・カザフスタンの国内の政治・経済改革などと、国際社会に対する実績が世界各国から高

く評価され、旧ソ連諸国の中から、またイスラム文化諸国の中から、そしてアジア大陸から初めての国として、56ヶ国が加盟している世界的重要な「歐州安全保障・協力機構（OSCE）」の2010年の議長国を務めた。

- カザフスタンは同会議の議長国として、世界各国が対等な立場で対話ができる、また国際的な問題などの効率的な解決策を世界各国が共同で検討することの重要性を訴えた。
- そして、2010年12月に、11年ぶりに同機構加盟国の首脳サミットがアスタナで開催され、アスタナ声明が発表された。



## イスラム世界との対話

- カザフスタンは、他の国際機関や機構などと共に年々存在感を高めているイスラム諸国協力機構（OIC）に対しても積極的な協力的な立場である。
- 世界の様々な文化の親交と様々な文明の対話などの重要性が増している現在、カザフスタンとして同機構加盟国との協力を重視している。
- カザフスタンが2011年の同機構の議長国を務め、第38回の外相会合がアスタナ市で開かれ、カザフスタン側の提案によって、機構名が「イスラム諸国会議機構」から、「イスラム諸国協力機構」へと変わったことも、カザフスタンの「相互協力」に対する立場の現れである。

## 国連安全保障理事会非常任理事国入り

世界平和確保へ応分な貢献をしていくために、カザフスタンは2017年～2018年の国連安全保障理事会の非常任理事国に立候補した。この選挙は2016年にニューヨークで開催される国連総会において行われるが、カザフスタンとしては、日本をはじめ、多くのパートナー国からの支持を期待している。

## カザフスタンの主要都市

### カザフスタンの首都アスタナ



選ばれたのは、この街が発展できる広がりを持っていたからでもある。

1998年、新しい首都はカザフ語で「首都」の意味を持つ「アスタナ」と改名され、1999年6月には、アスタナはUNESCOに「平和都市」の称号を与えられた。この新首都は、

1997年、ナザルバエフ大統領はアルマティから当時のアクモラへの遷都を提案した。この決断はアクモラがカザフスタンとユーラシア大陸の中心にあるという地政的な重要性と、輸送及び通信インフラストラクチャーの利便性に基づいたものであった。アクモラが

世界のトップ30都市のひとつとなるに相応しいあらゆる特徴を備えている。

カザフスタンの近代的首都は、たえず成長し、変化している。カザフスタンの人々にとっても、外国から訪れる人々にとっても、ますます魅力的になって来ている。アスタナの近代的な建物は、経済的、政治的、そして文化的中心としての新首都の役割を反映していると言えよう。

アスタナの建築物は東洋の伝統と先進的西欧建築の要素を調和させながら、これらを大胆に組み合わせている。アスタナの基本的都市計画は、日本の有名な建築家である黒川紀章氏によって設計され、市内に建つユニークな平和と調和の宮殿と「ハン・シャティル」という建築物はイギリスの建築家であるノーマン・フォスター氏の、新しいコンサートホールはイタリアの建築家であるマンフレディ・ニコレッティ氏のデザインによって建設された。

アスタナの中央広場は、大統領官邸、国会議事堂、その他の官公庁で区切られている。この広場の周囲には、居住用及び公共の複合施設を含む、650以上のビルが建設されている。



### バイテレクタワー ユーラシアの中心に立つ生命の木

首都アスタナのシンボルでもあるバイテレクタワーは、首都の新しい行政センターの中心にそびえている。木のてっぺんにおさまった金色の太陽、地上97メートルの高さにある展望台、内部は宇宙の3原則を象徴する3つのゾーンに分かれている。

なお、この97の数字は、1997年に遷都した年を意味しているが、新しい首都にそびえるこの塔は、アスタナのシンボルであると同時に、カザフスタンそのもののシンボルとなった。

### 平和と調和の宮殿

2006年に建てられたこの宮殿は、何世紀もの未来を先取りした斬新なピラミッド型である。ピラミッドの高さは62メートル、周囲より15メートル高い、2万5500平方メートルの敷地に建てられている。地下には1500人収容できるオペラホールがあり、上部には宗教会議に使える広い部屋が作られている。タワーのなかには、宗教的な行事やカザフスタンの人民が集う会議室、博物館や展示場などが含まれている。

### ハン・シャティル

「ハン・シャティル」ショッピングモール・エンターテイメントセンターは、平和と



調和の宮殿から伸びる軸のちょうど反対側に位置している。この複合施設の高さはほぼ 200 メートルである。テント状の建物内の 10 万平方メートルにおよぶ空間には、アスタナの住民が季節や天候にかかわらず楽しむことのできる、広大な公園や店舗、映画館やカフェ、コンサートステージやプールなどがある。

## アジア最大のオペラハウス

新しいオペラハウス、アスタナ・オペラの完成とともに、世界で最も新しい首都のひとつであるアスタナに、またひとつ文化的魅力が加わった。古代ギリシャ、ローマの影響を受けたグレコローマン様式とカザフの伝統をバランスよく組み合わせたアスタナ・オペラの正面は、有名なパンティオン神殿、モスクワのボリショイ劇場を髣髴させる。

オペラ座のインテリアを受け持ったイタリアのインテリア・デザイナーは、すべての装飾的な要素に手作りのものを使っている。クラッッシュ・ルームに入ると、広々とした多彩色の大理石の床と幾何学模様と、壁のモチーフに編みこまれた伝統的なカザフの飾りがまず目に入る。音響効果も素晴らしい、床と壁に注意深く使われたかば、ぶな、桜の木が、深みのある音を広範囲に伝える。

正面のステージは 400 平方メートルで非常に大きく、さらに 768 平方メートルのサイド・ステージが付け加えられている。舞台裏の最新設備により上演中にすばやく景色を変えることができる。オペラの黄金期を思わせる 19 世紀の様式で作られた音楽堂は、1250 人の観客を収容することができる。



## アルマティ



都であった。

アルマティは豊かな歴史を持つ街である。その昔は、シルクロードの中継地点として、

アルマティは総人口の 10% 近くにあたるおよそ 150 万人の人々が暮らすカザフスタン最大の都市で、国の金融、ビジネス、文化、歴史、科学、教育、産業の中心である。1929 年から 1991 年までは、カザフ・ソヴィエト社会主义共和国の首都でもあり、そのころはアルマ・アタと呼ばれていた。カザフスタンが独立してからアスタナに遷都される 1997 年までは、独立したカザフスタンの最初の首

中央アジアの国際的な商いの中心であった。中国から来たシルク商人、インドから来た象牙や香辛料を売る商人たちが、この街の文化にユニークな跡を残したのである。

現代のアルマティの伝統は、そうした様々な時代や国家からの文化的実践から成り立っている。様々な民族の特徴が入り混じり、ユニークな個性を作りだしたと言えよう。アルマティは東洋と西洋の伝統、遊牧民族と定住民族の生き方、考え方を組み合わせている。ここでは古代の伝統と、ソヴィエトの文化、現代のグローバル・トレンドがごくあたりまえのようにひとつになっている。

ガーデン・シティとして環境に優しく、安全で、社会的に快適な生活状態を作ることを目的とした「2030年までの都市発展計画」が採用されている。「アルマ」はカザフ語で「りんご」の意味で、アルマティの名前は、「りんごの父」という意味である。アルマティの周辺エリアは、カザフスタンだけでなく世界の科学者にも、りんごの生まれた地として認められている。

国の金融とビジネスの中心としての地位は、アルマティに集中する銀行取引と産業資本により支えられている。大部分の金融機関と企業の本社と管理部門はアルマティにある。カザフスタン国立銀行(カザフスタンの中央銀行)、カザフスタン株式取引所(KASE)もアルマティにある。金融の中心であるほかに、アルマティは大学の街でもある。

さらに、2011年にアスタナとアルマティが第7回アジア冬季競技大会の主催地となつたため、アルマティは立派な冬季スポーツの基幹施設を持ち、大きな多目的スポーツ複合施設、スキー・ジャンプ競技とバイアスロン競技用スタジアムを誇っている。カザフスタンで最高のマウンテン・スキー施設のあるシンバラクとメデオも、2008年に同じく大々的な改装を受けた。

アルマティは現在、2017年のユニヴァーシアード冬季競技大会の主催地として準備を行っており、2022年の冬季オリンピックへの立候補をし、今後の様々な競技大会の主催地となることを目指している。

また、アルマティに多くの国連機関が活動されている事実から、国連の地域的事務所をアルマティに置く、または世界銀行の地域的事務所もここに設置する計画が立てられている。





### 基礎データ

1991年12月28日、日本がカザフスタンを独立国家として承認。

1992年1月26日、2国間に外交関係樹立。

1996年2月22日、東京にカザフスタン共和国大使館開設。

1993年1月20日、アルマティに日本大使館開設。

2005年1月1日、日本大使館をアスタナに移転。

日本との貿易額（2012年）：20億5000万ドル

輸出：11億4000万ドル

輸入：9億400万ドル

企業共同体数：30体以上（2013年12月現在）

日本からの直接投資：62億円（2013年現在）

### 要人往来：

#### カザフスタンから

1994年4月 ヌルスルタン・ナザルバエフ大統領

1999年12月 ヌルスルタン・ナザルバエフ大統領

2002年12月 カスマジヨマルト・トカエフ国務長官兼外相

2005年6月 ダニヤル・アフメトフ首相

2006年11月 ヌルタイ・アブカイエフ上院議長

2006年12月 オラル・ムハメジヤノフ下院議長

2007年12月 ガリム・オラズバコフ産業貿易相

2008年6月 ヌルスルタン・ナザルバエフ大統領

2008年12月 ムタル・クルムハメド文化情報相

2009年8月 カナート・サウダバエフ国防相

- 2010年3月 カナート・サウダバエフ国防相兼外相  
2010年11月 オラル・ムハメジヤノフ下院議長  
2011年6月 エルボル・オルインバエフ副首相  
2012年10月 エルボル・オルインバエフ副首相  
2012年11月 エルラン・イドリソフ外相  
2013年2月 アセト・イセケシェフ副首相兼産業新技術相  
2013年4月 カイラト・マミ上院議長

### 日本から

- 1992年5月 渡辺美智雄副首相兼外相  
1997年6月 小渕恵三衆議院議員  
1997年9月 麻生太郎経済企画庁長官  
2000年8月 羽田孜元首相  
2003年6月 森喜朗元首相  
2004年5月 橋本龍太郎元首相  
2004年8月 川口順子外相  
2006年1月 町村信孝元外相  
2006年8月 小泉純一郎首相  
2007年4月 甘利明経済産業相  
2010年8月 岡田克也外相  
2011年5月 鳩山由紀夫元首相  
2012年5月 枝野幸男経済産業相

### 二国間条約・取極

- 2004年8月 日・カザフスタン技術協力協定署名（2005年6月発効）  
2008年12月 所得に対する租税に関する二重課税回避及び脱税防止のための日・カザフスタン租税条約署名  
2010年3月 日・カザフスタン原子力平和利用協定署名  
2013年2月 日・カザフスタン投資協定の実質合意



## 在日カザフスタン共和国大使館

〒106-0041 東京都港区麻布台 1-8-14

Tel: (03) 3589-1821 Fax: (03) 3589-1822

japan@mfa.kz

<http://www.embkazjp.org>